

2010. 8. 12 (木)

徳島新聞

糖尿病 共通課題探る

日中研究者が成果発表

徳島大病院

日中の糖尿病研究者が最新の研究成果を発表する「2010年アジア糖尿病フォーラム徳島」が11日、徳島市内の徳島大学病院であった。

天津医科大学代謝病院の于徳民教授は、糖尿病の合併症の抑制につながる新たな抗酸化物質を特定したことを発表。東

京大学の門脇孝教授は、新たに糖尿病の発症に係る遺伝子を発見したことや、遺伝子の障害で糖尿病の発症率が高まることを報告した。

徳島大学の松久宗英教授は、徳島県のメディカルツーリズム（医療観光）の取り組みや課題を紹介した。

と、世界の糖尿病患者は約2億8500万人。20年後には、1・5倍に増加し、その半数をアジアが占めるといふ。

近年、軽度の肥満でもかかりやすい「アジア型糖尿病」が、中国を中心にアジアで急増。フォーラムは両国の糖尿病の共通点を探り、研究や対策を進展させるのが狙いで、中国の研究者9人と徳島、東京両大学の研究者ら10人が参加した。徳島大学病院による